

検討の経緯

背景

- 平成24年度に「奈良県スポーツ推進計画」を策定（平成29年度中間見直し）し、様々な取り組みを実施
⇒ R5年度からの次期計画を策定予定
- 令和13年度に奈良県での国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催が内々定し、開催に向けた機運醸成と併せて更なるスポーツ振興を図る絶好の機会

これまでの取り組みの主な成果

- 1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施している人の割合は年々上昇し、R1年度には男女ともに50%を超えた
- 総合型地域スポーツクラブが全市町村で設立（R4年1月現在65クラブ活動中）
- 「奈良マラソン」がR1年度に10回目を迎え、冬の風物詩として定着
- 橿原公苑のナイトランの年間利用者数が約2万7千人、まほろば健康パークスイムピアの年間利用者数が約22万人を超える（コロナ影響前）

対応が必要な課題

- 子どもの体力の低下、運動・スポーツをする子としない子の二極化への対応
- 働き盛り・子育て世代の運動実施率の低迷と無関心層への対応
- 参加者、スポーツ団体、組織人員の固定化と高齢化への対応
- 学校部活動の地域移行の推進
- 県内スポーツ施設の老朽化と機能不足（プロや全国大会の試合開催基準を満たす施設がない等）への対応

対応が必要な社会的状況の変化

- 人口の減少、少子・高齢化の進行と都市部山間部の地域間格差の広がり
- コロナ感染症による生活習慣や社会の仕組みの変化
- デジタル技術の革新への対応
- 性別や年齢、障害の有無に関わらず、その特性を理解し参加を進める共生社会の実現

奈良県スポーツ振興のビジョン

<スポーツのもつ価値・効果>

個人の健幸⇒よりよく生きる

- スポーツを「する」「見る」「ささえる」ことでの直接的価値・効果
- 「楽しさ」「喜び」「勇気」「感動」体験
- 仲間との一体感や地元愛の醸成
- 心身の健全な発達と健康・体力の保持増進
- 精神的な充足感、自立心の涵養

Well-being
生活と心の
豊かさ

社会の健幸 ⇒ 暮らしやすさ

- スポーツを通じてもたらされる社会的効果
- 健康長寿社会の実現
(介護・医療費の削減)
- 地域のきずなづくり
(地域防災力の強化など)
- 地域経済の活性化

<スポーツ振興を通じて目指すところ>

「だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり」に取り組む

スポーツのもつ価値・効果を最大限に活用

体を動かす

人を育てる

活動の場をつくる

「生き生きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」の実現
「活力ある地域社会」の実現

- **「(仮称)奈良県スポーツ推進条例」の制定** (R4年度中制定予定)
奈良県のスポーツ推進の理念を明確にし、スポーツを通じて取り組む柱と施策を示す
- **「奈良県スポーツ推進計画」の策定** (R5年度からの5か年計画 (R4年度策定))
理念に基づき取り組む施策と数値目標をより具体的に定める

スポーツ推進の基本理念

1. 「楽しく」「自発的に」スポーツに継続的に親しめるよう推進する（価値へ影響）
 - ・運動・スポーツの習慣と継続により、心と身体の健康の維持・増進を図る
2. 適切な指導など安全・安心に配慮された環境のもとでスポーツを推進する（価値へ影響）
 - ・医科学との連携による怪我や障害などを防いだ指導や、身近な場所で安全・安心してスポーツに取り組める環境をつくる
3. アスリートが輝き活躍できるようスポーツを推進する（価値へ影響）
 - ・県民に夢やあこがれ、勇気・感動を与える存在となるアスリートが活躍できる場や機会をつくる
4. 子どもたちが豊かな心と人間性をはぐくむ基礎となるようスポーツを推進する（効果へ影響）
 - ・遊びからスポーツへ展開する中で身につける体力や社会性などにより子どもを発達段階に応じてはぐくむ
5. 地域の交流やきずなづくりが図られ地域の活性化に資するようスポーツを推進する（効果へ影響）
 - ・身近な場所で集まり運動・スポーツをすることを通じて地域内の交流ときずなを強める
 - ・地域資源を活かしたスポーツイベント・大会の開催、ツーリズムの推進により地域内外の交流や活性化を図る
6. 共生社会の実現に資するようスポーツを推進する（価値・効果へ影響）
 - ・性別、年齢、障害の有無、経済・地域事情によりスポーツ環境の差が生じず、相互理解の促進につなげる

スポーツ振興の柱と施策展開

健康増進のためのスポーツの推進〈体を動かす〉

県民一人ひとりが生涯にわたり、その関心、適性等に応じて自主的かつ主体的にスポーツに親しみ、心身の健康維持・向上を図る

- ①県民参加の促進 ②生涯スポーツの推進（学生、働き盛り・子育て世代、高齢者など） ③幼児・子どものスポーツの推進
④障害者スポーツの推進

スポーツ振興を担う人材の育成〈人を育てる〉

スポーツの持つ価値や効果が発揮できるよう、アスリート、指導者、ボランティアなどのこれからの奈良県のスポーツ振興を担う人材を育成する

- ①指導者の育成 ②選手の育成 ③サポート体制と人材の育成 ④健全性・安全性の確保

スポーツに親しめる環境づくりと地域の交流促進及び地域の活性化〈活動の場をつくる〉

県民のだれもがスポーツに親しめる環境をつくる。また、県の豊かな自然環境や歴史文化資源を活用したスポーツイベントの開催等により、地域交流の促進、地域の活性化に寄与する

- ①施設の整備 ②情報発信 ③地域交流の促進 ④地域経済活性化

奈良県スポーツ推進の条例・計画の検討について

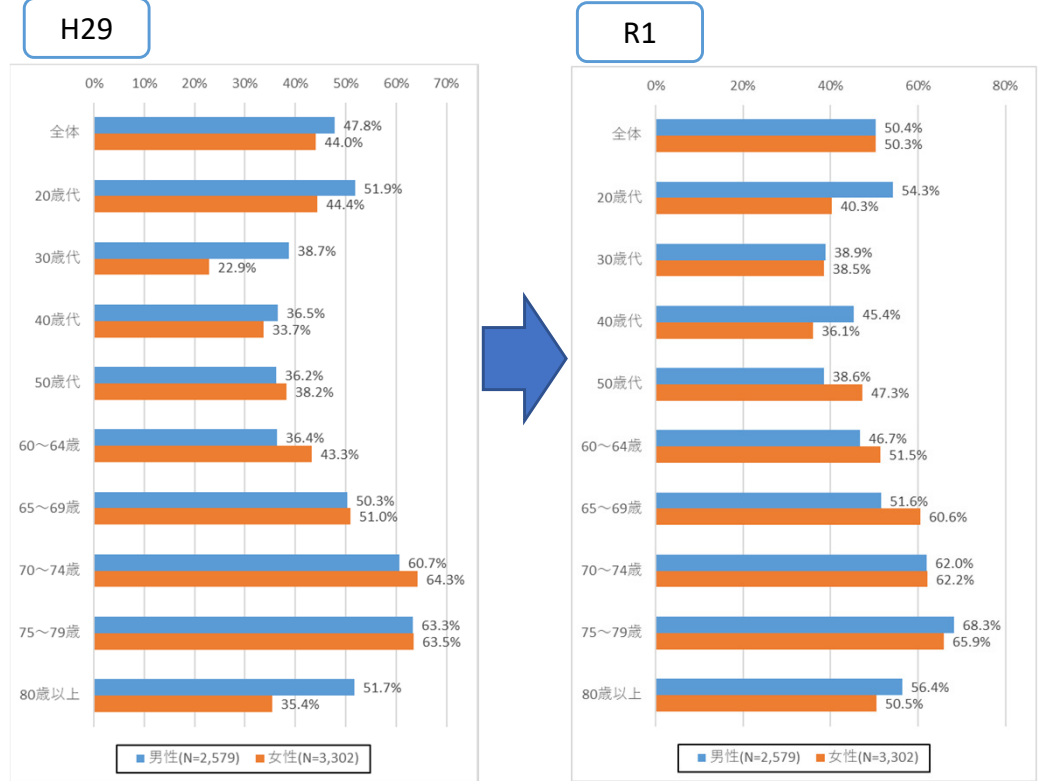
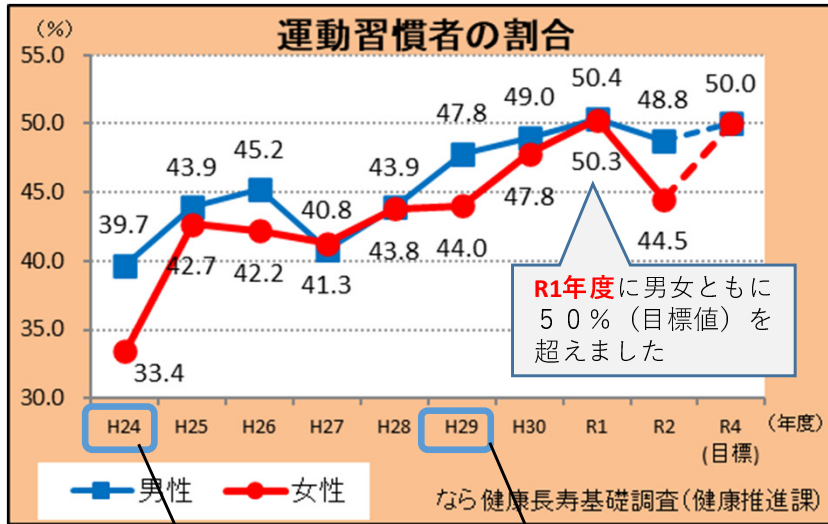
対象別にみるこれまでの取り組みと課題、今後の目標

対象	現在までの取り組み	課題・問題点	目標
幼児	幼児向け運動・スポーツプログラムの策定・普及 大学生による幼児スポーツ教室（大学生提案事業）（H26）	身体を動かすことの楽しさを知る 体験が必要 親子で遊べる身近な場所の環境整備と仕組みづくり デジタル化による運動離れと体力低下	幼児・子どもが、単に身体を「動かす」ことから、「あそぶ」に移行し、やがて 運動・スポーツにも興味・関心をもって主体的に行うようサポートする 
子ども・児童	市町村対抗子ども駅伝大会の開催 「まってる！花園」の開催 中国陝西省との青少年スポーツ交流の実施 総合型地域スポーツクラブの育成支援 プロスポーツとの連携事業（少年少女野球教室） まほろば健康パーク・スイムピア奈良整備 競技別教室の開催（H24～H26・H29～R元）	運動・スポーツの楽しさを知る 体験が必要 複数のスポーツを体験し、可能性を探る機会が必要 自由に集まり楽しく遊べる場所が必要 娯楽、趣味・習い事の多様化による運動・スポーツ離れ クラブ活動での親の身体的・経済的負担の軽減	楽しみながら運動・スポーツを習慣付ける（スポーツ習慣化） 
学生	「まってる！花園」の開催 県立学校グラウンド芝生化 橿原公苑ナイトランの実施 サイクルスポーツイベントの開催支援 まほろば健康パーク（スイムピア）奈良整備 全国高等学校総合体育大会の近畿ブロックでの開催（H27）	運動・スポーツ活動の切れ目ない継続 学校部活動の継続のための地域移行と指導者等の人材の確保 学校以外でのスポーツの場づくり	運動に関心のない人や運動実施率の低い層（働き盛り・子育て世代や女性）に向け、効果的なアプローチをすることで、 運動実施率を高める
働き盛り・子育て世代	総合型地域スポーツクラブの育成支援 橿原公苑ナイトランの実施 サイクルスポーツイベントの開催支援 奈良県健康ステーションの設置・運営 奈良マラソンの開催 まほろば健康パーク（スイムピア）奈良整備	運動に無関心な人へのアプローチ による運動の習慣化向上 健康維持、増進のための日常的な運動・スポーツの推進（運動実施率の向上） 運動を継続するための、身近な場所の環境整備と仕組みづくり	健康増進、健康維持 高齢期のQOLの向上 地域の絆づくりや交流の促進
女性	総合型地域スポーツクラブの育成支援 ならスポーツフェスティバルの開催（県民体育大会等） 橿原公苑ナイトランの実施 奈良県健康ステーションの設置・運営 奈良マラソンの開催	運動に無関心な人へのアプローチ と運動実施率の向上 身近な場所での運動・スポーツができる仕組み、環境 子どもや仲間と参加できる環境整備	
高齢者	総合型地域スポーツクラブの育成支援 シニア元気フェスタの開催 奈良県健康ステーションの設置・運営 奈良マラソンの開催	健康維持のための 日常的な外出 などの運動の推進 QOL向上のための身体活動の推進	
障害者	奈良県障害者スポーツ大会・軽スポーツ大会の開催 障害者スポーツ教室の開催 初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の開催 パラリンピックタレント発掘事業（水泳・陸上） まほろば健康パーク・スイムピア奈良整備	運動・スポーツなど身体活動の習慣化 スポーツに取り組める環境整備 （サポート体制整備含む） 障害のある人もない人もともに参加できる体制（共生社会） 指導者等の人員確保	

奈良県スポーツ推進の条例・計画の検討について

1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上している人の割合

引用：健康推進課 令和2年度なら健康長寿基礎調査報告書



(参考) R2年度 全国のスポーツ実施率の状況

引用：スポーツ庁 令和2年度「スポーツ実施状況等に関する世論調査」について

- ・成人の週1日以上スポーツ実施率は59.9% (R1年度53.6% 6.3ポイント増) (目標：週1日以上が65%)
- ・週3日以上スポーツ実施率は30.9%
- ・「この1年間に運動・スポーツはしなかった」かつ「現在運動・スポーツはしておらず今後もするつもりがない」と答えた「無関心層」が13.2%

● 条例制定・計画策定のスケジュール

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
共通事項	● 審議会						● 審議会				● 委員会報告 ● 審議会			● 議会上程
スポーツ推進条例	理念・施策の整理			条例骨子の検討 (関係機関調整)				条例案の検討				パブコメ ⇒ 条例案反映		制定・策定
スポーツ推進計画	施策内容の検討 (関係機関HR)		計画案の調整、目標数値の検討 骨子案の調整					計画案の作成 目標数値の確定				パブコメ ⇒ 計画案反映		